

熊本地震での被災校体験から



熊本保健科学大学
地域包括連携医療教育研
究センター/看護学科
竹熊千晶
(被災時学科長)

- 被災後の大学の教育継続の備えはできていますか？
- 被災校の体験から看護系大学のネットワークを考える。

大規模な災害の場合

学生本人(と家族)

教職員本人(と家族)

大学(建物全体と研究室)

実習施設(患者だけでなく、建物もスタッフも)



そのなかで教育(講義、実習)をどう保証するか！



本学の概要



熊本保健科学大学

熊本市北区和泉町325番地

保健科学部 医学検査学科

看護学科

リハビリテーション学科

保健科学研究科 保健科学専攻

助産別科

学生数合計 1,536名

熊本市

熊本県



4/16

本震震源地

4/14

前震震源地

平成28年熊本地震について(震度6以上のみ) No.1

4月14日(木) 21:26

40回

最大震度7(M6.5)

前震発生

22:07

最大震度6強(M6.8)

4月15日(金) 00:03

112回

最大震度6強(M6.4)

13:00

対応会議

①1号館まで休講、②2号館4階立入禁止

16倍

4月16日(土) 01:25

202回

最大震度7(M7.3)

本震発生

※大学サーバーダウン、断水

01:45

最大震度6弱(M5.9)

03:55

最大震度6強(M5.8)

09:48

最大震度6弱(M5.4)

7分に1回



平成28年熊本地震について No.2

4月16日(土) 15:00 事務担当者対応打合せ①状況把握、②安否確認

※メールシステム×, G-mail一斉配信×, LINE○

※熊保大学生専用LINE@アカウント→Googleフォーム◎

4月17日(日) 13:00 関係者対応打合せ 基本方針の検討

※大学サーバー・ホームページ復旧

4月18日(月) 10:00 第1回 熊本地震対策会議



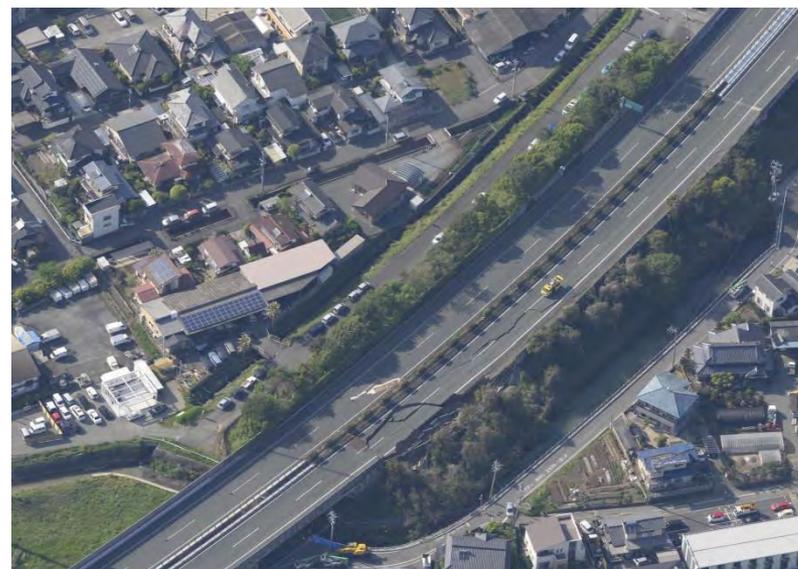
①4/28まで臨時休校、②福祉避難所の開設準備

※安否不明63、避難所生活90、県外実家避難359
→19日残り1名、21日全員確認

4月25日(月) 08:50 事務管理職対応打合せ

4月27日(水) 15:00 第2回 熊本地震対策会議 臨時休校延長～5/6

代表的な被災写真(上段:前震後、下段:本震後)



本学の人的被害(学生・教職員)

②大学再開へ向けた現状調査

4月27日(水)15:00時点

学部学生(1,496名)対象にGoogleフォームで調査→1,390名(92.9%)回答

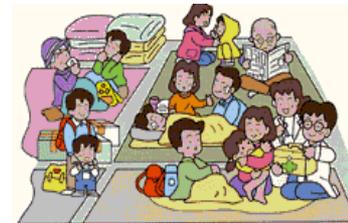
(1) 怪我等 17名 (治療済み又は日常生活に支障なし)

(2) 実家の全半壊 11名 →8月26日現在 54名(うち全壊11名、大規模半壊4名)

(3) 一人暮らしの家等の全半壊 3名

(4) 避難所生活又は車中泊 55名

(5) 通学の目途立たず 44名 →5月9日(月)時点での通学困難な相談 1名



③教職員の安否確認

4月25日(月)調査

教職員(166名)対象→回答率96.4%(特任教員、海外留学、育児休業以外全て)

○軽傷 6名、全半壊 5名・一部損壊 60名、出勤可能 160名

2号館(リハPT/OT)

3号館(看護学科3・4階)

上階ほど、実験機器や書棚の転倒大
下階ほど、発生したクラック大



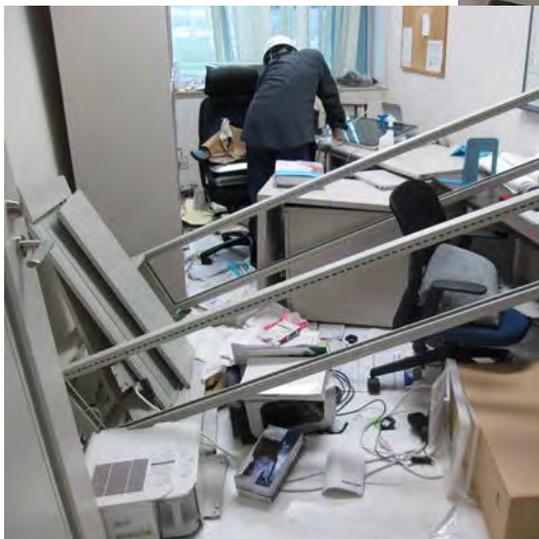
1号館(医学検査学科・共通教育・事務)

本学施設・設備の被害状況

実験・実習室



漏水による各種被害



→ 内開き扉のリスク

教員個人研究室

3号館の概要

上の階は揺れが大きく、
棚が倒れる。
研究室ドアが開かない。
隣の部屋の壁を壊して
中に入る。

3階教員室、本棚や
ロッカー、パーテーショ
ンが倒れ、小型冷蔵庫
や上乗せ棚が飛んで
落下。

4階

基礎実習室

母性・小児・助産実習室

助産別科・認定看護師コース教員室

看護学科教員室

3階

成人・老年実習室

精神・在宅・地域

看護学科教員室



井張替)

2階

リハビリテーション学科

言語聴覚学専攻 実習室

教室・教員室

1階

50周年記念館約300人, 助産学科教室

約120人規模のM教室 3

約60人規模のS教室 3

20人規模のゼミ室 3

公衆衛生看護倉庫 (鍵を切断した)

教室ドア・倉庫扉が開かない



学生・教職員の安全をはかり、教育内容の質をできるだけ落とさずに、学生を修業年限で卒業させる



余震が続く中，教職員復旧を急ぐ

【実習関係】 実習受け入れ中止施設が発生

1. 3年各領域・4年公衆衛生看護実習の実習地・実習期間の再調整が必要になった。

新たに受け入れ可能な施設・病院確保が困難！



・付属病院がない大学

1) 他の実習施設で学生数増ができるか

2) 県外に実習先を確保できるか, その際に指導者をどう確保するか, 学生の負担をどう軽減できるか

⇒ 休講中, いくつかの実習施設に学生ボランティアを派遣
(後片付けの支援, 職員の子どもの保育などを受け持つ)

⇒ 延期グループを崩して, 8月・9月に実施可能
実習再開・学生数増につながる

2. 実習施設から実習に伴う保険内容・安全確保の方針について大学側に問合せが相次いだ.
災害特約がついていない.

- 学外非常勤教員との時間割再調整
- 授業時間数の確保
- シラバス内容の変更
- 建物・機器破損に伴う学内実習・演習の変更
- 実習室・教員研究室の迅速な復旧作業に追われる。
(出勤できる教員に限られ, 人手不足)
学生ボランティアも協力

各領域の責任者

- 各実習施設の指導者に連絡
- 実習時期の変更依頼、確認、学生数調整
- 学生への連絡

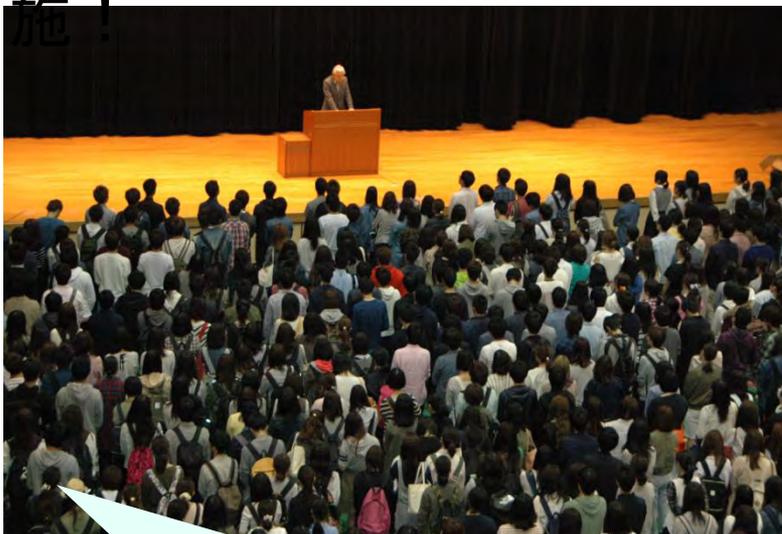
4月始まりの実習領域、なかでも被害の大きかった実習施設を予定していた領域が大変

学科長

- 大学側(学長、事務局長、実習支援センター)との情報共有、基本方針の決定
- 各領域長と連絡
- 実習施設管理者との連絡
- 他の実習施設確保のための依頼、検討
- 実習施設からのボランティア要請などの対応

5月9日(月)大学再開

⇒本学初の**全学集会**を実施！



会の初めに、熊本地震で犠牲となった東海大学熊本キャンパスの学生3名と行方不明(当時)の熊本学園大学の学生に対して、**黙とう**を捧げました。

通学困難な相談は1件のみ

⇒この学生についても、配慮可能！

(全学集会**学長のことば**より一部抜粋)

私が嬉しかったのは、自身が被災者でありながら多くの学生諸君がいろいろな場所で自主的にボランティアに参加してくれたことです。実習で世話になった病院等に自ら駆けつけた者、各地の避難所で精力的に炊き出し等を行った者、高齢者の家に出向き片付け等を手伝った者、また、**県外に避難した学生諸君は各地で募金活動**を行うなど、かつて体験したことのない厳しい環境の中で、一人一人が自分たちのできることを考えて行動してくれたことを誇らしく思います。

この震災は、本学にとって未曾有の試練とも考えられます。今まで通り、またそれ以上に学生・保護者・教職員の絆を密にして、お互いのことを思いやり助け合って、この難局を乗り切っていきましょう。

熊本地震を体験して ～その課題①～

①何ら根拠のない**安心感** ⇒ **油断**

「**熊本は大丈夫**」 → 安全な場所などない！ **どこでも有り得る！**

②全員が**被災者**

マニュアルは通用しない！ 大学に駆けつけられない！

③情報**システム**の脆弱性

サーバーダウンは当たり前！ **2重3重の手段**を構築すべし！

④**ライフライン**の確保

- **断水**対応 → 水道水の代替としての井水（井戸水）の利用・・・フードパル熊本
- **停電**対応 → 太陽光発電システム、自家発電システムの導入
- **都市ガス供給停止**対応 → 一部プロパンガスの活用

安否確認方法 → 大学LINE@開設 二重・三重の手段を併用

熊保大 学生専用 LINE@ はじめました。

LINE

暴風警報が発令された場合等の休講（休校）などを
試験的にお知らせしていきます！

「友だち追加」から「QRコード」または「ID検索」でご登録ください。



1. LINEアプリを起動



2. 「その他」→「友だち追加」をタップ



3. 「QRコード」を
タップ



4. 上記のQRコードを
読み込む



3. 「ID検索」をタップ



4. 検索バーに
「@azx1108y」
と入力して検索



5. 熊保大学生専用と表示されたら「友だちリストに追加」をタップして完了

1. 全学生1600人同時の避難誘導訓練

マニュアルはあったが、全学避難は実施したことがなかった。

年1回実施 観察者をおき、ビデオで課題検証

より実践に近い訓練を行う

2. 災害マニュアルの整備

3. 災害特約保険⇒**学生の任意加入が可能となった**

4. 食料や水の備蓄

飲料水メーカーと契約し、自販機を活用して備蓄

- 組織全体の危機管理体制の見直し
- 設備（耐震・棚の固定等）
- 防災・危機管理マニュアルの作成
（実習中止の判断、安否確認、連絡方法）
- 被災時の情報収集の流れの確認
- 備蓄品の整備 支援物資が届くまでの3日間
- 天災対応の保険加入の促進
- 災害時に地域で活躍できる減災型リーダー
の養成「減災リテラシー入門」（H26年から）



地震後各階ローカに設置された 避難誘導用ヘルメット・拡声器



【新アリーナ完成】 西里駅前

一時的に約1500人が入ることが可能
停電時はガス発電により、館内の照明・
空調・トイレの電力を確保できる。
会議室・更衣室・車椅子専用トイレあり
地域の福祉避難所としても機能可能



備蓄倉庫(乾パン・水) 3日間をどう生き抜くか



★飲料水メーカーと契約・自販機を活用して備蓄



災害の他，朝食抜きの学生を減らすため，食料品の自販機設置
◇断水時の井戸水確保や地域と連携した水・食料品の備蓄

「災害時における保健医療」(減災リテラシー入門)

熊本大学, 熊本県立大学, 本学の共同実施(H26.7)



「待つのも仕事！」



ハザードマップ作成(H27)



避難所訓練の実施・検証



トイレグランプリ
はどこだ！

食料争奪戦
6人にこれだけ？



避難所生活を振り返る
グループの強みは何か
次の自分たちの課題は何か



熊本大学・熊本県立大学と連携した (H29) 減災型リーダー養成プログラム

www.***.com



宿泊避難所訓練・段ボールトイコンテスト



消防署と連携したトリアージ・搬送訓練



熊本地震経験後の受講生の感想

学生の約6割がボランティアをしていた！

- 知識を増やすことで災害時も冷静に対処できる。もっと学びたい。
- 阿蘇山の危険性を知った。美しさとともに自然の恐ろしさを知ることができた。
- 土砂災害の種類や地質構造など、地元に住む者として必要な知識だった。
- 本学では学ぶことのできない分野の講義だった。様々な業種や専門家が活躍しており、連携することの重要さも学ぶことができた。
- 私たち若い世代が災害時にどう動くかがキーポイントだと思う。
- 熊本地震に遭遇し、「減災」の意味を知った。皆に伝えていきたい。



2016年 我々は一日も早く授業や実習を再開するために、
ひたすら学内を片づけ、実習や時間割を調整し、
海の日・山の日の休みなく、講義・演習・実習に
追われる日々を過ごしました。

もし、地震が昼間だったら・・・もし、季節が違っていたら、
学生・教職員が亡くなっていたかもしれません。
大学の講義や実習再開はもっと困難だったと思います。

この先、どこで災害が起こっても、各大学での教育を早期に
再開させるためには、平時の備えと日本全国にある看護系
大学の連携が大切だと思います。

熊本へ多くのご支援をいただき、
本当に有難うございました。

